

長崎医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合やお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 膵癌における握力と予後の関連解析

[研究責任者] 肝臓内科 医師 末廣 智之

[研究の背景]

膵癌は依然として予後不良な悪性腫瘍であり、術後再発率も高く集学的治療が必要となります。現在切除可能膵癌に対しても術前化学療法を行うことが標準的治療戦略の一つとして広く普及しており、化学療法は膵癌治療の柱となっています。

一方で、化学療法施行中には化学療法関連毒性、栄養状態の悪化、筋肉量や身体機能の低下などが問題となり、これらが治療完遂率や術後合併症、ひいては長期予後に影響を及ぼす可能性が指摘されています。近年、癌の患者さんにおいてはサルコペニアが予後や治療忍容性と強く関連することが明らかになってきています。サルコペニアの指標の一つである握力は非侵襲的かつ簡便に測定でき、身体機能の統合的指標として予後や術後合併症、化学療法毒性との関連が報告されています。

本研究では、膵癌に対して化学療法を導入された患者さんを対象に、治療導入前の握力および筋肉量が全生存期間および無再発／無増悪生存期間に及ぼす影響を検討することを主目的とし、治療完遂率や術後合併症との関連についても検証することとしました。

[研究の目的]

本研究では、膵癌患者さんにおける化学療法導入前の握力および筋肉量をカルテ情報から収集し、予後および臨床パラメータとの関連を後ろ向きに解析します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2019 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日の間に、国立病院機構長崎医療センターに通院・入院歴のある膵癌患者さん

●研究期間：倫理委員会承認日から西暦 2030 年 12 月 31 日

●利用する検体、カルテ情報

カルテ情報：背景、生年月日、性別、既往歴、合併症、臨床検査値、画像検査、病理検査、化学療法の種類および実施期間、有害事象、手術および術後再発の有無、術後合併症の有無、最終転帰

●検体や情報の管理

臨床パラメータと予後の解析情報は長崎医療センター内で集計、解析が行われ、研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

[個人情報の取扱い]

研究に利用する個人情報は、お名前、住所など、個人を直ちに判別できる情報は削除し、研究用の番号を付けます。また、研究用の番号とあなたの名前を結び付ける対照表を当院の研究責任者が作成し、診療情報との照合などの目的に使用します。対照表は、情報管理者が責任をもって適切に管理いたします。

情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

ご自身の試料や情報を研究に使わないでほしいと希望されている方も、下記の連絡先までご連絡ください。なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、国立病院機構長崎医療センターにおける診療には全く何の影響もなく、いかなる意味においても不利益を被ることはありません。

[問い合わせ先]

国立病院機構長崎医療センター

肝臓内科・医師 末廣 智之

電話番号：0957-52-3121（代表）